

市長から

昨年は、6月に発生した大阪北部地震や7月の西日本豪雨などの大規模災害により、多くの住家や尊い人命が犠牲となりました。特に西日本豪雨では岡山県においても倉敷市、総社市を中心とした地域で甚大な被害が発生し、多くの方が長い避難生活を余儀なくされました。

岡山県においては、この災害を検証するため、防災を専門とする大学教授などで構成する委員会を立ち上げ、今後の防災対策について検討しており、県民の防災意識の高揚と本県の防災力の向上を図ることとしています。

本市においても災害に強いまちづくりを目指し、これまで市防災行政無線については、以前から放送内容が聞き取りにくいといった声が寄せられており、市としてもその解消に向け努力をしているところですが、抜本的な解決には至っていません。

昨年10月に実施した総務省消防庁による災害情報伝達手段アドバイザー派遣では既存設備の強化、新たな情報伝達手段の導入などについてアドバイスをいただきました。これを受け、本市にふさわしい方法を構築すべく、来年度は新たなシステムを含めた情報伝達手段の検討をしていきたいと考えています。

市営バスの運行状況など

市営バスの運行開始から今年1月末までの乗客数は、3路線合計で6,793人、一便当たりの平均乗車人数は、1・0人となっております。路線ごとの平均乗車人数は、牛窓



見直しを検討している土砂災害ハザードマップ

での自主防災組織の育成事業、防災リーダー研修に加え、土砂災害ハザードマップの見直しや、懸案である新たな災害情報の伝達手段の検討などを行います。

また、来年度は全世代型の社会保障制度への転換に向け、消費税増税分を活用した幼稚園、保育所、認定こども園などの無償化が始まります。市としては、これらを背

く邑久駅線1・2人、西脇く邑久駅線0・5人、美和線1・3人となっております。

来年度からの新路線導入を予定している長船北部および邑久南西部では、住民意見交換会などで地域住民のニーズを把握した上で、定時定路線の市営バスを軸として、運行方法や具体的な路線などについて案を作成し、市地域公共交通会議で具体的な検討を行います。その後、計画がまとまった段階で、地元自治会、岡山運輸支局などの関係機関と調整を行うこととなります。引き続き公共交通不便地域の解消に努め、交通弱者の外出機会の増加による健康増進、地域経済の活性化などに つなげていきたいと考えています。



新路線導入を予定している市営バス

景に今後多様化する保育ニーズに対応すべく、今年度実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を踏まえ、新たな施設整備や子育て支援サービスについて、「第2次太陽のまち創生総合戦略」「第2次子ども・子育て支援事業計画」の策定に反映させていきたいと考えています。

庁舎再編基本計画

庁舎再編の基本計画は、基本構想の短期計画であるゆめトピア長船周辺施設整備について、基本計画・基本設計の策定を進めています。

基本構想では、ゆめトピア長船内に配置されていた長船支所を、市民の利便性、施設の効率的利用の観点から保健福祉部仮庁舎内に配置することとし、あわせて建物の位置

錦海湾堤防の海岸保全区域の指定

錦海湾堤防については、昨年8月議会において、堤防の両側に位置する玉津港、師楽港の港湾区域の変更を議決いただき、海岸保全区域の指定を受けるための準備を進めていきましたが、国および県との協議を重ねてきた結果、今年2月19日に海岸保全区域の指定を受けました。これにより、海または地盤の変動による被害から防護すべき海岸として位置づけられ、災害発生時に国などの支援を受けることが可能となります。

なお、区域の指定に際し、新たな海岸名を付ける必要もあったことから、今後はこの錦海湾堤防を、錦海の「錦」の1字を取って、「錦海岸」と命名しました。

上水道事業

福山浄水場施設更新整備事業については、施設の耐震化、

も、ゆめトピア長船南側から駐車場敷地の北側へ変更することとしています。さらに、公民館施設利用者、新施設の利用者への配慮、また、災害時の対応なども考慮して、施設の床面積や構造、コストなどについて部長級で構成する策定委員会の中で検討しているところ です。

今回の基本設計に基づいて、来年度には実施設計を行うよう考えています。

平成31年度当初予算編成

当初予算編成にあたっては、財政健全化を基本とし、持続可能で自立性の高い財政運営基盤の確立を図りつつ、瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略に基づく「地方創生事業」や、錦海塩田跡地の貸付収入を積み立てた太陽のまち基金

を活用した「まちづくり事業」などを実施しています。

さらに、ふるさと納税を積み立てた応援基金を活用するため、「応援基金活用事業」枠を設け、各所属から提案のあった事業のうち、必要と認められた事業について基金積立金を充当し、限られた財源を効果的に配分したメリハリのある予算を編成しました。

一般会計の予算総額は、約183億4,400万円と前年度の予算をさらに4億1,300万円上回り、合併後最大の規模を更新した予算となっております。

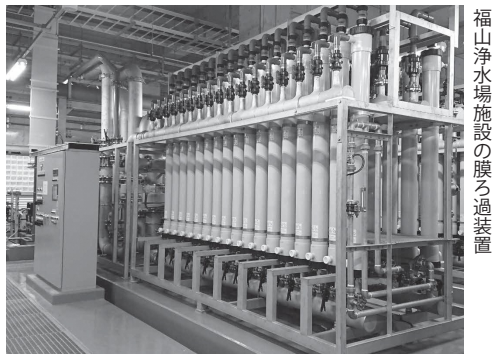
これは長船地区の庁舎再編事業をはじめ、JR3駅の駅前等整備事業、学校施設長寿命化計画に基づく小・中学校・幼稚園の校舎・園舎などの改修事業の事業費などを計上したことが主な要因です。

平成30年中の火災救急概況

火災の状況については、平成30年中の火災件数は12件で、前年と同数となっております。内訳は、建物7件、林野2件、車両2件、その他の火災1件で、火災による人的被害はありませんでした。今後とも、一層の火災予防対策の推進に努めます。

一方、救急の状況については、1,764件の出動に より、1,712人を搬送し、前年より36件、36人の増加となり、年々増加しています。65歳以上の高齢者の搬送率は、70・3%を占め、前年より1・8ポイント上昇しており、高齢者の救急搬送率も年々上昇しています。

高齢者に多い家庭内での転倒事故などを未然に防ぐため、住宅防火訪問時に予防救急の推進に努めます。また、救急隊員の知識および技術の向上のため、指導救命士による救急隊員の教育体制を充実させます。



福山浄水場施設の膜ろ過装置

より安全な水の供給を目的に進めています。処理方式変更に伴う水質検査においても問題なく、2月から膜ろ過方式に切り替えて給水を行っています。

工事の進捗についても計画どおり順調に進んでいて、来年度は、引き続き沈砂接触池・排水池・濃縮槽などの築造を行い、平成32（2020）年8月には工事を完了する予定です。管路関係の整備については、送水管の更新工事と公共下水道事業に伴う配管布設替工事を行い、安定した水の供給に努め、ライフラインの強化を進めていきます。

瀬戸内市の旅

Journey of Setouchi City



空から見た前島



前島フェリー



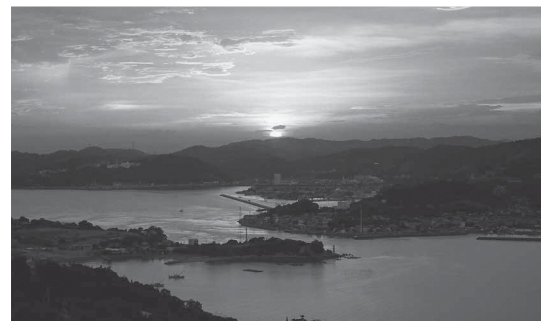
カボチャ



レンタサイクル



シーカヤック



前島展望台から見た夕陽

牛窓・前島

前島へは牛窓港から前島フェリーに乗ってわずか5分のミニクルージング。海からの眺めを楽しむと、非日常の時間が流れる島に到着します。

前島の野菜は、瀬戸内海のやわらかな陽光と潮風を浴びて旨みを蓄えながら育ちます。夏にはカボチャ畑、冬にはキャベツ畑が広がり、季節ごとに島の装いは変化します。また、前島は県下有数の釣り場でもあります。島に渡ったらレンタサイクルで島をぐるっと巡り、のんびりとした島日和を満喫できます。シーカヤックで瀬戸内海の穏やかな海を冒険するのもオススメです。

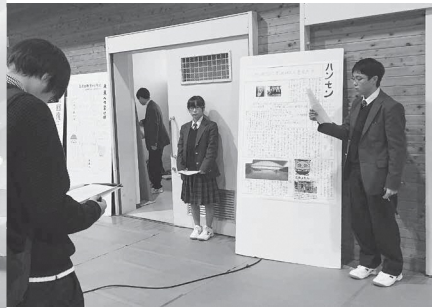
レンタサイクルで美しい海岸沿いや林の中を走り抜けると「展望台」に到着します。ここは前島の最高地点で、360度の美しい瀬戸内海を望むことができます。山を登ってきた疲れも美しい眺めに癒されます。前島は日本の夕陽百選にも認定された、夕陽がとてもきれいなスポットとして有名で、展望台やフェリー乗り場からの夕陽はまさに絶景です。ゆっくりとした時間が流れる前島を、ぜひ楽しんでください。

利用のご案内

- ▷所在地 牛窓町牛窓 前島
- ▷利用時間 (前島フェリー運航時間)
午前6時30分 (牛窓港発の始発)
～午後9時 (前島港発の最終便)
- ☎瀬戸内市観光協会 ☎0869-34-9500
- ☎前島フェリー ☎0869-34-4356



MAP



邑久高校の学生らによる「地域学」での学習発表

特定非営利活動法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会を中心に邑久光明園、長島愛生園および両園自治会と協力しながら、世界文化遺産および世界の記憶の登録に向けて推進活動を行っています。市内の郷土民話の語り部グループによる療養所を題材とした物語の上演や、地元邑久高校「地域学」での学習発表など活動の広がりを実感しています。

ハンセン病療養所の世界遺産登録活動

遺産登録に向けた史跡調査などの事業を展開していきます。

教育長から

学校教育においては、子どもたちが「わかった」や「できた」という達成感をエネルギーとし、次への挑戦意欲を持てるよう、特別支援教育の視点や人権意識の醸成に配慮しつつ、日々の授業改善や細やかな生徒指導が充実するよう、教員一人一人のライフステージに沿った指導力向上と一体感のある学校力の向上に取り組み必要があります。

一方で、子どもと教職員が向き合う時間を確保することや、教職員自身の働き方改革、子どもたちの安心・安全を支える施設・設備の整備もさらに推進する必要があります。社会教育においては、子どもから大人まで楽しめるスポーツ環境の整備、市全体の文化に対する意識を高め、社会教育施設や施策の有機的連

携を総合的に進める文化振興計画の策定や、これを推進する体制を整備することについての検討が必要です。

学校施設の整備

現在行っている牛窓東小学校と今城小学校のプール改修工事は、既存のプール本体の土台を残しつつ、新しい水槽を内張りしていく工法により、リニューアル工事を進めています。

試運転や検査などが一部、4月にずれ込む見通しとなっていますが、学校関係者のご協力のもと、工事はほぼ順調に進んでいますので、平成31年度のプールの授業は、新しくなった施設を使っていたいただけるものと考えています。

美和幼稚園の休園

美和幼稚園においては、新入園児の入園希望がなく、平成31年度は園児が1人となる状況となりました。教育委員会としては、園児

数が極端に少ない園では、集団生活の中で子ども同士が切磋琢磨し合う環境や、人とならって物事を成し遂げようとする力を育成する点で懸念があります。これらのことから、在園児の保護者と協議を行いました。その結果から、先の教育委員会議で来年度から美和幼稚園を休園とすることとしました。

瀬戸内市学校給食調理場の運営改善に向けた計画

現在、邑久、長船、牛窓にそれぞれ学校給食調理場をもって給食の提供を行っていますが、牛窓調理場については、施設や設備の老朽化が進んでおり、今後に生じる維持管理費や1食単価などのコストの状況から、早期に統合に向けた措置を講ずる必要が生じています。また、正規職員の退職や慢性的な臨時調理員の不足から生じる課題への対応も急を要しています。牛窓調理場の機能を邑久調

理場へ統合し、安全で安心な給食の安定的な提供と食育の充実を図る取り組みの第一歩として、長船調理場の業務の一部を来年度8月から民間へ委託し、正規職員(再任用職員を含む)を牛窓調理場へ集約することで慢性的な人員不足の解消を図りたいと考えています。これと並行して牛窓調理場の閉鎖と邑久調理場への機能統合に関し、保護者などの関係者への説明や関係機関・業者との調整を行いながら、邑久調理場の拡張や施設設備の整備を早急に進めていきたいと考えています。

お詫びと訂正

「広報せとうち」平成31年3月号の記事に以下のとおり誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
4ページ「瀬戸内発見伝」3段目最後の行
誤 恩賜会館は、鉄筋コンクリート造りで
正 恩賜会館は、木造で